広報かわぐち

No.43

2月号

発行人
川口町公民館長
保科 清
編集人
広井幸雄

人口の動き

12月末現在

人口	6,864	(＋2)
男	3,344	(－2)
女	3,520	(＋4)
世帯数	1,550	(－5)

(　) 内は前月比

1月10日　東部保育所で

「それ、つけ！」
かわいいおでこに
おもちにつられて
きねが上がらず
ときおり床が
まわりの人が
ささえてやって
ぼくらつよいぞ
わたしもつよいぞ
たのしいもちつき

ぺったん
ぺったんこ
はちまきしめて
ヨーロヨロ……
りきみ顔
うすがわり
とびだした
ぺったんこ
雪ん子だ
風ん子だ
ぺったんこ

『川口町青年団かわら版』
――川口町青年団今年の課題――

町民各位の熱いまなざしと期待、そして私たち青年のより深い交流、生活の向上という目的の中からうぶ声をあげた川口町青年団も、今年で三年目を迎えました。

考えてみますと、この二年間私たちは夢中で活動をしてきましたが、ようやく青年団らしき活動ができるような段階に成長してきたと思います。右も左もわからず、一つ一つが試行錯誤で先輩の助言や教育委員会の方々の手助けによって少しづつですけど大人になってきたということを感謝する気持ちでいっぱいです。

昭和五十二年の年頭にあたって**「青年団活動の神髄とは何か」**ということを考えてみると、なかなかむずかしく複雑な訳ですが、漠然と頭の中に浮かぶものは「青年団というものは、**その地域に根ざした青年活動を展開してゆく集団**である」ということです。昨年の青年団は、五月の泥かぶら公演、そして十一月の町民芸能祭の奉仕活動と単発的ではありますが、川口町という一つの地域生活の中に根ざした活動をしてきました。今年は、これらの活動を土台として一歩一止地味ではありますが確実に進んでゆく活動として**「川口町をきれいにする運動」**というようなことをしていけたらと思います。道路、河川、公共施設ときれいに保っていかなければならない所はたくさんあると思います。年間を通して奉仕活動を続けるということは、なかなか大変なことだと思います。しかし現在の団員八十名の輪をもう一回り大きくし、団結していったならば必ずやってゆける事だと思います。

青年団はまだまだ未熟青年の集まりです。しかし若さという無限のエネルギー、そして向上しようとする考えは絶えることなく燃焼しています。どうか町民各位のあたたかいご協力ときびしいご指導を受けて青年団が地域社会とともに発展してゆくようよろしくお願いいたします。(事務局長 広井淳一)

❀❀季節の話題❀豆まきと立春❀❀

豆をまくのは節分と相場は決まっておりますが、この行事、元は中国二十四節気の一つであることは知られております。

今でこそ立春の前日に行っておりますが、**立夏、立秋、立冬**のそれぞれ前日が節分。つまり気節の移り変わる時という意味であるようです。

豆をまくようになったのは千三百年ほど昔、文武天皇の慶雲三年に、諸国で悪病が流行し、その時**厄除けの行事**として行われたのが始まりといわれております。

時代は下がって平安朝には宮中の年中行事の一つになりました。

そして**「鬼は外、福は内」**と唱えるようになったのはさらに時代が下がった南北朝時代からといわれます。

そのころは、この行事も信仰をともない、真剣なものだったと思いますが、現在行われているのは芸能人を年男にして神社やお寺で行う豆まきもPR効果をねらったものが多くなりました。

明けて四日は立春、**冬が終わり春の季節に入った**、ということから、現在でも立春を元日として祝っているところがあります。

いずれにしてもいろいろな行事初午や八十八夜とか、二百十日などはこの立春の日から数えて決めるわけで、暦の上の重要な日であるわけです。

‼小さな親切‼とは!?

ある町内で、あるいはある学校で、こんなことばをよく耳にします。

親切とは、人の**心の底から**であり、**思いやり**があり、**配慮のゆきとどいている**ことであり、**人情のあつい**ことといわれています。

私たちも「小さな親切」とはどんなことか首をかたむけてみましょう。

表紙の写真について

新しい年、そして私たち日本の国ならでは……のおもちつき風景。一月十日、東部保育所で取材したもの。

あぶなっかしいやら何とやら？でも、りっぱな**若い衆**でした。

かわいい子どもたちに……と、川口五の若松屋さんが心をこめたお・・・としだま！で、ことしで五年目。しあわせがいっぱいでした。

荒屋遺跡を町文化財に指定

十一月十九日、町教育委員会では文化財調査審議会で調査された荒屋遺跡について町文化財保護条例によって史跡に指定した。

荒屋遺跡は昭和三十三年四月に明治大学芹沢教授が学術調査を行ない、結果は極めて重要な遺跡であることが確認された。荒屋遺跡は信濃川と漁野川の合流点に近い西川口地区荒屋にあり、遺物は地下50cm～90cmのローム質砂層に多くその特徴は細石器であって、他に見られない特有の形がある。

今回指定された地域は二、五二七平方米であるが、教育委員会ではこの地域を中心にした文化財史跡の保護を看板等で呼びかけることにしている。この指定については、地主である浅間惣作、浅間朝治、山田隆作、小宮山信一の四氏のご協力を賜ったことに深く感謝する次第である。

なお、文化財調査審議会では埋蔵文化財には荒屋遺跡の他にも優れた遺跡を今後調査して指定する予定である。また文化財には天然記念物、名勝、史跡、無形文化財民俗資料、有形文化財などがあり、逐次調査審議して指定をすすめ、町民の文化財保護を換起していく予定である。

寒波襲来に―万全の備えを

年末から新年にかけて、またもや**大寒波**が襲い、北陸特有の異常な豪雪に見舞われ、町では一月七日「豪雪対策本部」を設置、大雪による災害の防止に万全を期する体制に入りました。

昨年も昭和三十八年を上回る程の大雪のため、文通マヒをはじめとして町民の生活に甚大な影響を与えましたが、ことしもそのきざしが伺われ、油断はできません。

すでに、区長、連絡長さんを通じ、各ご家庭に必要事項について周知されるようお願いもしてありますが、チラシにより各対策本部からは、戸へ配布されていますので承知されておられることと思いますが、もう一度次にかかげる事項について確認しましょう。

1　除雪後は、道路に雪を出さないよう協力すること。

2　除雪作業中は機械に近寄らないよう、特に幼児・児童に対し注意をうながすこと。

3　建物の除雪は早めに行い、手不足の家庭等には部落内で除雪に協力すること。

4　なだれ等危険箇所を発見した場合は、ただちに本部あて通知すること。

5　被害が発生した場合本部あて報告願いたいこと。

なお、各ご家庭では次のことも忘れないよう特にお願いします。

○　最近、**プロパンガスによる爆発事故**が相ついで発生していますが、**ボンベの置いてある場所の雪のようす**に気をくばりましょう。

○　家や、その他建物の**屋根からおちる雪**のため、大人、子どもに限らず、その下敷きにならないよう注意しましょう。

○　よそへ出かける時は、**行く先時間等**を家族間でよく話し合い**不審な場合はすぐ連絡**をとりましょう。

―冬と建康―

空気が乾燥して湿度が三〇%以下になると、ホコリやチリが大気中に浮遊しかぜがすごい勢いで流行します。

外出先から帰ったら**ウガイと手**をよく洗いましょう。

外で働く人達は、知らず知らずのうちに免疫ができるものです。

自分が発病しないからといって汚染されていないわけではなく、家にいて低抗力の弱い老人や幼児にうつさないよう細心の注意を払うべきです。

最近では、手の指がブクンブクンにふくれ上がったシモヤケをあまり見かけなくなりましたが、この季節に手足をぬらしたままにしておくとシモヤケになること必定。

くつ下は一日はくと足の油でつめたくなり、汚れたままはき続けると足の裏やくつに触れる小指などがふくれ上がってきます。

人間の皮膚は、冷えると表面から余分の体温発散を防ぐため、血液の流れを少なくします。

この、いわば**"自衛"反応**がシモヤケの原因にもあるわけで、対策は乾いた布でよくぬぐい、血行をよくするための**マッサージ**をすることです。

毎日、サッパリしたくつ下をはくだけでも足のシモヤケは快方に向います。夜、ふとんの中で暖まるとむずかゆくなりますが、かきむしらないよう注意したいもの。

幼児は、手ぶくろをつけて寝かせ、かきむしり予防をするのも一つの方法です。

冬の食事についても考えてみてはいかがでしょう。

"ぜいたく"ということではなく、**冬と食事**……といったらどうでしょう。

寒い時の食べ物は何といっても鍋物でしょう。

簡単な湯豆腐をはじめ、スキヤキ、鳥の水たき、ハマグリ鍋などどれも寒さで身が締まり、脂がのってうまくなっています。

野菜類も、ハクサイ、シュンギク、長ネギなど、これまたいずれも身が締まりサクサクとおいしくなっています。

この料理の楽しさは、皆が一つの鍋をつっつきあうことであり一家がだんらんをすることです。

このような時は、食事時にテレビを消し、一日の出来ごとを語り合って食べたら、北風に吹きさらされた身も心もゆっくりと溶けて暖かいふんいきに包まれることでしょう。

善意の人

〈施設慰問へ〉

信越工業㈱（保育所へ給食用器材コースター二百箇）川口一

荒屋遺跡のなぞ

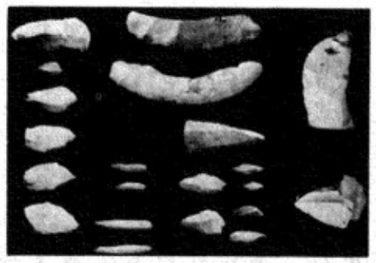
（その一）

野田
古田島　慎市
（町文化財審議委員）

伝承も記録もない古い時代の研究には、埋蔵文化財が重要な資料となる。それは、考古学といわれる学問の対象でもある。

石器や土器、その他遺物を残した古代人の生活の場は多く、河岸段丘の上に発見される。

現代社会にあっても、河川は大きな役割を果たしているが、先史時代にあってはなおの事で、漁撈に、交通に、水利の便は人々の生活に密接な関係にあった事は当然であろう。



荒屋細石器

信濃川と魚野川の二川が合流する川口地域には、典型的な河岸段丘が発達している。そして、そこには多数の古代遺跡が散在している。段丘上は、比較的広大な平担地でもあり、陽あたりもよく見透しもきいて、しかも水の便に近いから絶好な居住地であったに違いない。

かって、日本の古代文化は縄文文化に始まると考えられていたが昭和二十四年に発掘された群馬県岩宿遺跡では、日本にも縄文時代以前に無土器の古い文化が存在した事が確かめられて、大きな注目をあびた。その後、縄文文化の調査は急速に進み、昭和二十八年の矢出川遺跡の調査では細石器が先土器時代の良好な資料として始めて発掘された。

川口町西川口荒屋、信濃川に魚野川が合流する地点の懐部に位置する第二および第三段丘には、縄文時代の遺物が広く地表面にも分散しており、特に第三段丘上には濃厚分布がみられた。

標高九十米のこの地域の内で、星野芳郎氏が細石器を発見された事で俗に**藤助屋敷**と称される畑で、昭和三十三年四月二十九日より五月五日まで明治大学芹沢長介助教授（現東北大）の指導による本格的な発掘調査がなされ、予期以上の成果を収めて、荒屋遺跡の名に始めて学界の注目が集まったのである。

魚野川に臨む十二米の崖上台地にある荒屋遺跡は、腐植土による第一層が五十センチ、第二層のローム質黄褐色土が四十センチとして第三層以下は固い砂層が続く。

遺物は後世の攪乱で若干の浮上もあるが、主体は第二層のローム質砂層中からである。青色砂の非常に硬い第三層にも、直径約一米深さが約一米の円型竪穴が堀りこまれてあり、恐らく貯蔵庫のような遺構と推定されている。

出土遺物は石器であって、その殆んどが硬質頁岩を原石としている。主体をなすものは長さ二～三センチのきわめて小さな細石刃で六七六点となり、その他彫刻刀（荒屋型）四〇一点、礫器六点、尖頭器五点、掻器一一点、石刃二点、錐器二点、舟底形細石刃核二四点扁平石核一点、削片一、〇一二点、使用痕のある剝片四五点鏃形石器四点の計二、一八九点と報告されて非常に豊富な組合わせを持っている。

（以下次号）

ガスもれにご注意を！

最近、全国的にガスもれによる大きな事故が続発しています。

あなたのお家では、**ホースや器具の点検**をよくやっているでしょうか。

ガスは、とても便利でしかも清潔で、今では生活に欠かせないものとなりましたが、安全点検を怠りますと大災害をまねきます。

ちょっとした心づかいが一家を守ります。

おたがいによく注意しましょう。

〈シリーズ〉(六)
私たちの生活と税金について

還付の申告はお早めに！

昭和五十一年分の所得税の確定申告と納税は**二月十六日から三月十五日まで**となっていますが、税金の還付を受けるための確定申告は二月十五日以前でも受付けております。

税金が還付される人は……

①住宅を新築したり、新築住宅を買った人。

②病気などのため多額の医療費を支払った人。

③災害や盗難にあって損害を受けた人。

④51年の中途で退職し、年末調整をしていない人。

⑤所得があまり多くなく、原稿料や配当などがある人。

⑥予定納税のある人で、確定申告の必要がなくなった人などです。

還付される税金が三万円以上になる人は、申告書に受取る銀行や農協などの預金口座を書いてください。

※くわしいことは小千谷税務署へお問い合せください。

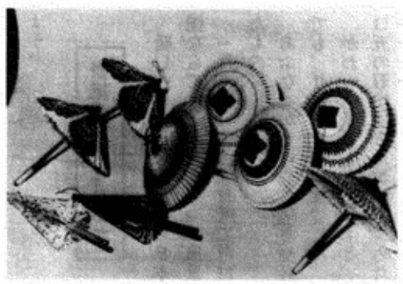
人生と生きがい

手づくりの**ミニ傘**町に贈る

大和町浦佐の特別養護老人ホーム「八色園」に入っておられる星野吉次さん（木沢出身66才）からたばこの空き箱を生かした手づくりのかわいいミニ傘（写真）が町に送られてきましたので、さっそく福祉センターに展示致しました。

星野さんは、からだが不自由で歩くことはできませんが、とても手先きが器用な方で、人生を楽しく過されています。

とかく、不況とせちがらさとが流行語のようにゆきかう中でとまどいがちな私たちに、なにか暖かく、また、なにか語りかけられているような気がいたします。



星野さん、いつまでもお元気で。